

自然体験活動について

講義担当

鹿児島大学 総合教育機構 共通教育センター
体育・健康教育部門
福満 博隆

研究分野：レクリエーション・野外教育

• 野外活動

「野外活動とは、大自然の中で、または大自然を利用して行われる身体活動、知的活動、および情操的・文化芸術的活動を含む諸活動の総称である。」----- 新修体育大辞典より

• 野外教育

野外活動を教材として教育的働きかけ（意図的）を行う。学習目標（ねらい）や対象に合わせた教育方法があり、ねらった教育効果が見られる。

• 自然体験活動

学習指導要領に出できた言葉（教育的活動を意味視している）教育行政や社会教育施設、教育団体において使われている。

☆なぜ自然体験活動が必要なのか？

生活環境の変化に伴って子どもの遊びが変容する
問題点：今の子ども達に足りないもの

1) 直接体験（生の体験）の減少

→ 生きる力を身につける機会が減っている(自己肯定感の不足)

→ 知恵を学ぶ場が足りない

2) 豊かな感性の喪失

→ 感じ取る力、感じていることを表現する力が失われている

→ 生活のなかで五感をフルに使う場面が少なくなっている

見る，聞く，触れる，嗅ぐ，味わう

ネイチャーゲーム



目隠しトレイル



インタビューシート

森の中にあるもの（何でもかまいません）に目玉をつけてみよう。
その目をじっと見ていると、何かを話してくれているように感じませんか？
そっとインタビューをして、その話を聞き取ってください。

- ① インタビューの相手に名前をつけてください。
(よくかんさつして相手にふさわしいあだ名を考えてみよう。)

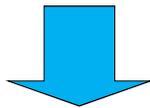
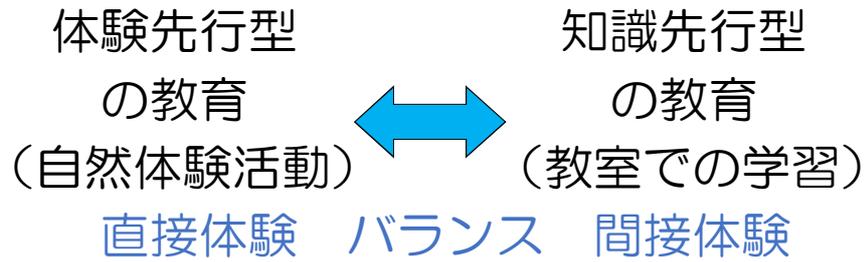
- ② 相手はどんなひと（？）ですか。

- ③ どんなことを話してくれましたか？

森のインタビュー



《 課題 》：直接体験の場としての自然体験を考える



振り返り

※ 体験を通して、感じたことや学んだことを言葉にする

体験から経験への発展

試行錯誤
自分で考える



生きる力へ



共感してあげる

※ 体験をさせることが目的ではない！

体験 → 固有名詞を伴うことが多い

経験 → 抽象名詞を伴うことが多い

(例) ナイフで木を削った、作品を作った

→ 刃物は注意しないと危険である

→ 刃物で色々なものが作れる (大切な価値)

夕焼けがきれいだった

→ 自然は美しい

学習 → 行動力 (生きる力) を身に付ける
体験の積み重ね → 心を育てる

雪が解けると何になる？

☆自然体験活動によって学ばせたいこと（目標）

1) 人間（自分）と環境（自然）との関わりについて

- 自然の生態（人間生活との関係）について直接的に学ぶ
（ → 知的，科学的な認識の発展）
- 自分を取り巻く生活環境の仕組みや問題点に気づく
- 自然に対する豊かな感性を養う
（ → 感動する心，感謝する心）

2) 人（自分）と人（他人）との関わりについて

- 集団における役割分担や責任
（主体的な行動 → 存在感）
- 集団における精神的なストレスの克服
（コミュニケーション術の修得）
- 集団による問題解決：協力する，合意する
（コンセンサスを得る）
（仲間との成功体験 → 喜びの共感，達成感を味わう）



（相互理解，相互信頼が生まれる → やさしさ）



話し合うこと 試行錯誤
失敗を重ねながらも段々と目的に迫っていくこと

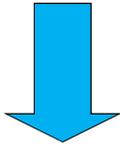


ひとりではできないことを仲間と協力して、
支えあって、最後までやり遂げた体験



3) 自分自身について

- 成功体験の積み重ねによって自己発達を促す
(自己肯定感の充足)



※葛藤する場面で認めてもらうこと

- 自分の可能性に対する発見
- 自信を深める (不安 → 自信)

※ 自然環境の中にいる自分,
他人の中にいる自分,
非日常の中にいる自分をみつめる

4) 豊かな生活のための技術や知恵について

- 先人の生活の追体験 → 人間の知恵, 文化を学ぶ
※ 自然体験活動を通して危険を学ぶ(経験)
→ 身を守ることを学ぶ(安全教育)
- ※ 自然に対する正しい認識を持ち, 危険を予知し, 回避する能力を育てる。
- 地域の文化や風土にふれる → 地域理解
- 楽しく明るい生活を営む能力の育成 → 生きる力

野外での不便な生活体験の中で

できるだけ快適な(楽しい)活動ができるように工夫する。
困難を乗り越えようとする。(楽しむ)



知恵や文化を学び、生きる力、楽しく活動する力を養う。

☆ 学習指導要領における体験活動の位置づけ

- 1) 特別活動 > 学校行事
> 遠足・集団宿泊的行事
- 2) 総合的な学習
- 3) 道徳教育
- 4) 各教科との関連 (体育, 理科, 生活,
家庭, 図画工作など)
→ 学際的要素を含んでいる

☆ 総合的な学習における

環境教育としての体験活動 (理科や生活科との関連)

⇒ 環境学習の視点を明確にしたテーマ

- 植物とのかかわり：栽培体験，収穫体験
- 動物とのかかわり：バードウォッチング，昆虫観察・飼育体験
- 水・川・海とのかかわり：水の循環，川の実地調査，
海岸のゴミ拾い，沢登り，
- 山や森林とのかかわり：間伐体験，森林のはたらき
- 人々の暮らしとのかかわり (社会科や道徳との関連)
- 生態系とのかかわり：学校ビオトープをつくろう
ディスカバリーハイキング

総合的な学習の時間と特別活動との関連については、第1章総則の第2の3の(2)の工に、「総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。」との記述がある。これは総合的な学習の時間についての記述であり、探究的な学習であることが前提となっている。

- ・ 総合的な学習の時間に行われる**自然体験活動**は、環境や自然を課題とした探究的な学習として行われると同時に、「**自然の中での集団宿泊活動**などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、**自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができる**」遠足・集団宿泊的行事と、





食物連鎖



道徳教育の内容と自然体験活動

「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。」

→ 人間（自分）と環境（自然）との関わりについて学ぶ

「主として他の人とのかかわりに関すること」

「主として集団や社会とのかかわりに関すること」

→ 人（自分）と人（他人）との関わりについて学ぶ

「主として自分自身に関すること」

→ 自分自身について考える

企画書 A	
Team 林業体験隊	Member: 園田、上野、木之下、竹下
<p>おもい(実現させたいこと)</p> <p>5年生社会科学学習、3学期の内容、日本の林業についての理解を確かなものにするために、事前に体験を通して、林業の大切さを学習させる。</p>	
タイトル (サブタイトル)	究極の再生資源 ～日本の林業の現状から～
なぜ(目的) Why	日本の林業の現状から、問題点を明確にし、林業を活性化するため
どこまで(目標) How Far	林業体験を通して、日本の林業の現状を知る。
誰が(主催・共催など) Who	主催：垂水市内の某小学校 共催：垂水市教育委員会
誰に(対象者) Whom	スタッフ 学校から2名、外部4名 某小学校5年1組、男子15名、女子15名、計30名
いつ(時間・期間) When	8月2日～3日
どこで(場所) Where	大野ESD自然学校、鹿児島大学附属演習林

企画書 B	Team
【何を What? どうやって How?】	林業体験隊
1日目	
学校発	8:30
大野ESD自然学校着	9:30
アイスブレイク	10:00～10:30
昼食	12:00～13:00
講義	13:30～14:30
伐採地見学	15:00～16:00
枝うち、下草刈り	16:30～17:30
入浴	17:30～18:30
夕食	18:30～19:30
アクティビティ (星空観察)	20:00～21:00
就寝	21:30
2日目	
起床	6:30
朝食	7:00～
木工	8:30～
植樹	10:00～
振り返り	11:30～
昼食	12:00～
グループ	13:00～
発表	14:00～
閉講式	14:30～
発	15:00
着	16:00